趣旨

今後の圏域の振興策について、さらに連携を深めていくために各首長のアイデアを直接共有するもの。

ディスカッション 1 (30分程度)

周遊観光について

・資料P2以降のNo.1-1～No.1-18まで、8市町からアイデア提出あり

【流れ】

- ・各市町説明／各市2分以内（No.1佐世保市～No.18伊万里市）
- ・各市からの説明を受け、今後の取り組みに関するキーワードや方策など大きな方向性についてのディスカッション

ディスカッション 2 (30分程度)

拠点整備について

・資料P6のNo.2-1～2-2について、2市町からアイデア提出あり

【流れ】

- ・各市町説明／各市2分以内（No.1佐世保市～No.2西海市）
- ・各市からの説明を受け、圏域の活性化につながる施設についてのディスカッション

ディスカッション 3 (10分程度)

その他の項目について

※ 事務局でテーマの選定は行っておりませんので、特にディスカッションしたい項目があれば、その場で各首長からご発言をお願いします。

※参考

●骨太方針／2024年6月21日閣議決定

（広域連携及び多様な主体との連携・協働によるサービスの提供）
地方公共団体が連携して地域に必要な人材を確保・育成する取組を推進するとともに、関係省庁や地方公共団体が連携し、広域での取組が有効と考えられる事務の共同実施等に取り組む。**特に複数団体による広域的な公共施設の集約化・共同利用等を更に進めるための取組を強化する。**また、地域の多様な主体が連携・協働し、生活サービスを提供しやすい環境整備を進める。

●連携中枢都市圏構想推進要綱／2023年4月21日追加部分
（3）連携中枢都市圏の今後の展望（抜粋）

今後は、施設・インフラ等の資源や専門人材の共同活用による住民の生活機能の確保、広域的なまちづくりなど、合意形成が容易ではない課題にも積極的に対応し、取組の内容を深化させていくことが必要である。

1 周遊観光について

No.	市町	アイデア	背景・理由
1-1	佐世保市	周遊観光の推進に関し、ハウステンボスと圏域内の観光素材を連携させた商品造成を行うほか、圏域内の宿泊施設に宿泊した方へのプレゼントキャンペーンを実施すること等により周遊を促進する。 また、ハウステンボスからの送客施設の設置を検討する。	ハウステンボスの来訪客の取り込みには、ハウステンボスと連携した取り組みが有効であるため。
1-2	佐世保市	HTBのHP内に連携市町の情報を掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・HTB×佐世保、HTB×九州はすでに掲載中 ・旅マエにHTBサイトを訪れた方に対して広域市町の情報を提供し周遊を促進（別添案参照）
1-3	佐世保市	HTB入場者限定！連携市町宿泊キャンペーン <ul style="list-style-type: none"> ・HTBに入場した、もしくは予約済の方を対象とした宿泊キャンペーン ・HTBから宿泊する市町までの距離に応じて割引額変動あり（例）佐世保市内1,000円、平戸市2,000円、新上五島町5,000円など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊促進するためには、短期的には直接割引が効果的と思われるため（コロナ禍でも宿泊CPは効果大であった） ・距離に応じて割引額をUPさせることで遠方への周遊と宿泊にも繋げたい
1-4	佐世保市	ガーデンツーリズム <ul style="list-style-type: none"> ・HTBを軸として、西海橋公園や田平公園、平戸公園、松浦資料博物館や民間の庭園なども含め、地域ならではの特徴を持つ多様な庭園や花の名所をネットワーク化 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜や菜の花、コスモスなどのフォトジェニックな花は集客効果が高く、県外からの来訪も多い
1-5	佐世保市	首長みんなHTB年間パスポート取得&情報発信運動！	win-winの関係のためには、HTBからの誘客とHTB入場者数増の取組みも必要。各首長が積極的にHTBに入場し、HTBからの周遊と合わせてSNS等でHTBのPRを行う
1-6	佐世保市	西九州させぼ広域圏モデルルート造成・情報発信 ハウステンボスと西九州させぼ広域圏の魅力的な観光資源を連携させたモデルルートを造成・情報発信を行い、周遊促進を図るもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行の際の、自家用車・マイカーの利用の割合が増加傾向にある。 ・佐世保観光コンベンション協会公式HP内のモデルコース閲覧者数が増加傾向にある。

1 周遊観光について

No.	市町	アイデア	背景・理由
1-7	佐世保市	MRを活用した広域周遊 ・HTBのイベントや企画とコラボしたMR等鉄道会社と連携したPR活動。 例：ミッフィーラッピング列車、記念切符発行等	・令和5年度、大人の女性に人気のキャラクターランキング3位にミッフィーが選出されている（マクロミル調べ）。 ・世界最大級のミッフィー専門店であるナインチェカフェがHTBにある。 ・ミッフィーファンを圏域に周遊させる。
1-8	平戸市	圏域の資源を活かした歴史街道プロジェクトについて 1 文化振興・歴史研究 圏域にある歴史的資産に関わりのある担当者、学芸員、教育機関、史談会など市民活動団体等を網羅したプラットフォームを構築し、歴史的価値の共有や歴史研究・活用をベースとした文化振興を図る。 2 教育の連携 歴史研究の成果を体験教育及び人材育成等へアウトプットし、学びを通じて小中学生の域内交流の促進を図るとともに、絆の深化とシビックプライドの醸成につなげ、圏域での定住とUターンにつなげる。 3 観光振興 平戸藩10代藩主・松浦熙公が選んだ平戸八景のほか、圏域内の景勝地を活用した観光誘客、交流人口の拡大を図る。 4 物産振興 圏域では平戸焼、三川内焼を有し、また平戸藩主に関連する酒蔵や鎮信流（お茶）等も所在することから、歴史的ストーリー性を背景に様々な物販を促進する。	圏域には、これまで先人たちが紡いできた歴史的遺産や芸術、伝統があり、それぞれの地域で絆を紡ぎ、連綿と受け継がれてきている。 これらの歴史的価値に改めてスポットを当て、圏域の宝として共有し、ひいては圏域の活性化につなげることができないか。 具体的には、プロジェクトを通じて歴史を遡ることで、伝統や文化等の教育を通じてアイデンティティの確立を図り、圏域内住民としての誇りと世代を超えた共感を醸成し、文化振興、歴史研究の推進、小・中学生の体験教育等の推進、観光振興、物産振興につなげられないか。

1 周遊観光について

No.	市町	アイデア	背景・理由
1-9	松浦市	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の魅力満喫周遊観光の造成 連携事業に掲げる「広域連携による周遊観光の推進」を実現するために、圏内各自治体の観光資源を「観る(学ぶ)」、「食べる」、「体験する」等にジャンル分けし、主要な空港や駅を基点にそれらをめぐるモデルコースや移動手段などを造成し、モニターツアーを実施する。 その上でブラッシュアップを行い、多言語化した媒体等を使って広くPRし、国内外から圏域内への観光需要を取り込む。 	
1-10	松浦市	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の魅力まるごと食とお酒と器のイベント 圏域内には各自治体自慢のグルメがあり、酒蔵も数多くある。これらを飲食するために必要な器を、三川内焼、有田焼、波佐見焼、伊万里焼など本圏域内の焼き物を使用して飲食するイベントを開催できないか。 また、グルメに合うお酒、グルメに合う器、お酒に合う器などを募集してグランプリを決めてはどうか。 	
1-11	川棚町	広域観光の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・広域DMOの検討 (特にHTBからの周遊促進) ・タビマエにおける情報発信強化 (場合によっては着地型旅行商品として展開) ・観光物産展を福岡にて実施 	広域周遊、特に県内でトップの来訪者数を誇るハウステンボスからの周遊促進を図ることが重要。 本町においては、現在大崎半島における観光まちづくりを推進しているが、インバウンドの受入体制は十分ではないため、日本人客の誘致を図りたい。
1-12	波佐見町	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘客 <ul style="list-style-type: none"> ○クルーズ船からの誘客 ○個人旅行者 (FIT) へのプロモーションPR ○広域圏でのツアー造成 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナがあけて、インバウンド解禁となり、誘客を行いたいが、小さな町では海外プロモーションに限界があるため、連携した取り組みができれば助かるため

1 周遊観光について

No.	市町	アイデア	背景・理由
1-13	小値賀町	エアモビリティを活用した圏域全体の周遊観光ルートの検討。2025年の大阪万博では空飛ぶ車（エアモビリティ）のお披露目が予定されていますが、普及していけば、インフラにかかるコストが安くなり、早くて安くて便利なヒト、モノの移動が可能になると言われています。観光においても好きな時にどこへでも移動できるようになり、海に隔てられている面での時間的コストも大幅に削減されることとなります。短時間で多くの場所（または広域）を周遊できる観光ルートを検討してみてはどうでしょうか。	
1-14	新上五島町	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウステンボスを拠点に西九州させば広域都市圏内で周遊する連携事業の検討 ・ハウステンボスマリーナ&ハーバーを拠点にプレジャー・ヨット等で西九州させば広域都市圏を周遊する連携事業の検討 	<p>・本町はプレジャー・ヨット等の受け入れについて、長崎県五島振興局上五島支所の支援を受けながら、奈良尾地区の活性化を目指す有志らを中心に「奈良尾漁港賑わい創出協議会」を創設し、奈良尾ターミナルと浮棧橋を係留場所とした「かみごとう・ならお海の駅」として、令和6年3月10日に認定されました。</p> <p>また水産庁が公募した「海業の推進に取り組む地区」として全国54地区の1つに指定され、奈良尾地域をはじめ町全体の交流人口拡大と地域経済の浮揚に繋げたい。</p>
1-15	伊万里市	統一のポスターやパンフレット（リーフレット）の作成	肥前窯業圏の事業と同じく統一のポスター・パンフレットを作成し周遊促進を図る。
1-16	伊万里市	クルーズ船旅客対象の周遊券事業	佐世保港からバスでの周遊を促進できるような体制を整備し、圏域内に消費してもらえるような仕組みを作る。

1 周遊観光について

No.	市町	アイデア	背景・理由
1-17	伊万里市	ハウステンボス関連ホテル宿泊者対象の周遊券事業	全国屈指のテーマパークであるハウステンボスを軸にした事業は、観光客の誘客には効果的だが、ハウステンボスのブランディング上、直接連携による事業を行うことは難しいと考えられるため、周辺事業者との連携を考える。ハウステンボス来場者に圏域を周遊してもらうには車と宿泊が必須である。
1-18	伊万里市	ハウステンボスに拠点を置くレンタカー事業者と連携した周遊券事業や割引事業	

2 拠点整備について

No.	市町	アイデア	背景・理由
2-1	佐世保市	<p>拠点整備として、新しい観光スポット整備や宿泊施設の誘致を進める。</p> <ul style="list-style-type: none">・俵ヶ浦半島には現在九十九島観光公園を整備したところだが、半島全体の自然観光公園化に向けブランディングを行うことにより民間投資を誘導し、観光地としての活性化を目指す。・佐世保駅の三浦地区について、交通の拠点であるターミナルの再編を行うとともに、バンケット機能を有したホテルを誘致する。	<p>交流人口の拡大、賑わい創出のため新たな拠点を整備する必要があるため。</p> <p>また、周遊観光につなげるには、圏域内での滞在時間を延長することが必要である。</p> <p>そのために、魅力的な拠点整備とハウステンボス外での宿泊施設の誘致が有効と考えるため。</p>
2-2	西海市	<p>県立西海橋公園周辺への全天候型（屋内型）施設の整備</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 佐世保市と西海市を結ぶ西海橋は、国の重要文化財に指定されており、また、県立西海橋公園は県北地域を代表する観光地として親しまれている。 <p>猛暑や雨天時でも親子で利用できる施設が整備されることで、交流拠点としての役割や観光素材としてのコンテンツ造成が期待できる。</p>

3 その他の項目について

No.	市町	内容
3-1	西海市	ごみの広域処理に関する研究
3-2	東彼杵町	<p>・遠隔医療ネットワークの構築</p> <p>【背景や理由】 本来県がすべきことではあるかと思いますが、本町には小児科がなく、唯一の整形外科も閉院、町民が安心して暮らせる環境が低下しています。病院の誘致もなり手不足等で簡単には実現できません。そこで圏域内で遠隔医療実施体制を構築し、どこに住んでいても安心して医療サービスを受けられるようになればと考え提案します。本町では閉院した施設をサテライト病院として活用できないかと考えています。</p>
3-3	東彼杵町	<p>高齢化社会に対応する共生社会の実現</p> <p>【背景や理由】 介護に関わる人材が不足しており、日本人だけでなく外国人に対する支援と育成を自治体や福祉施設などと連携し取組み、人材を確保していく仕組みを構築したい。（モデル事例：北海道東川町）</p>
3-4	川棚町	<p>・電子通貨の運用</p> <p>【背景や理由】 域内経済の循環による活性化、及び住民に対する行政施策への取組に関するインセンティブの付与。</p>
3-5	川棚町	<p>・マイクロプラスチックの排出・流出抑制についての研究</p> <p>マイクロプラスチック対策は、単一の自治体で解決できる問題ではなく、広域での検討や対策が必要。広域圏として取組みを推進し、ブランディングの一環としても活用できるのではないかと考えています。</p>

3 その他の項目について

No.	市町	内容
3-6	佐々町	<p>・「圏域まちづくり研修会」の開催 「地域経済活性化に即したまちづくり」をテーマに、連携市町職員を対象とした研修会を開催できないか。専門家等の学識経験者をコーディネーターとして招へいし、研修テーマに沿った取組事例に対する分析評価・意見を求めることによって、各市町が抱える経済けん引の課題解決を図ることに繋がり、また、経済活性化に関する施策に反映できる一助になるのではないか。</p> <p>【背景や理由】 各市町が抱える地域経済の現状については、多様な課題があると考えている。商工業や農業、観光資源活用策など経済成長に関する諸課題を洗い出し、広域都市圏ならではの解決策を見出すため、産業振興や観光振興等の所管部署を横断して、連携市町職員相互に学習・情報交換が行える研修の場を設定していただきたい。</p>
3-7	佐々町	<p>・「圏域情報誌」の発行 広域都市圏の各取組をアピールするため、定期的に「圏域情報誌」を発行できないか。 圏域内で開催するイベント情報や連携市町の紹介、第2期ビジョンで実施している各種取組の成果等を掲載することにより、圏域全体の機運醸成や市町民相互の交流促進及び圏域外への情報発信に寄与できると考える。</p>
3-8	伊万里市	<p>・「海きらら」「森きらら」について、圏域住民が佐世保市民と同額で利用可能 ・その他圏域内の施設についても、圏域住民であれば同額で利用可能</p> <p>【背景や理由】 圏域の中心的な動植物施設である「海きらら」「森きらら」の活用を促進し、圏域住民に自然環境や動物の保護に対する理解を深めてもらう。圏域住民はより施設を利用しやすくなり、施設としてはより多くの集客を見込めるようになる。</p>
3-9	伊万里市	<p>令和7年4月に佐世保市に開校予定の市立夜間中学への就学あっせん</p> <p>【背景や理由】 令和6年4月に佐賀北高校舎内に開設された県立夜間中学には、公共交通機関が時間結節していないためか、伊万里市からの就学者がおらず、就学相談に関しても実績がない。 佐世保市の場合、終業後のJRからMRへの乗り継ぎによる帰宅が可能となる。</p>

3 その他の項目について

No.	市町	内容
3-10	有田町	災害におけるゴミの広域的処理 【背景や理由】 災害の被害大でその後の対応が厳しい現実が近隣市町である。
3-11	有田町	県境を越えた医療体制の強化 【背景や理由】 医師不足
3-12	有田町	未来のある子どもたちの育成のため、ハウステンボスを核とした学びの場の提供 ↳ プログラミング・マイクラフトなど 英語体験